

♪ マーチングバンドの楽器ご提供のお願い ♪

カンボジアの中・高校生マーチングバンドのための楽器を集めています。
バスドラムとそのスティック、チューバ★
スネアドラム、木琴、
トランペット、フルート、トロンボーン、
3連マーチングドラムとそのスティック
(★印が特に必要です)

詳しくは東京事務所までお問合せください。



会費支払

当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。
JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。
・年会費：一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円
・上記それぞれ「正会員」「賛助会員」「賛助会員」が選択いただけます

- ◆「正会員」：定例総会や臨時総会の出席資格、議決権を持てます
会費は控除の対象にはなりません
- ◆「賛助会員」：定例総会や臨時総会に出席できますが、議決権を持てません
会費は寄付と同様に税法上所得控除の対象となります

口座名：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
郵便口座：00110-4-356264
銀行口座：みずほ銀行赤坂支店 普通 1844676

※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。
※期限前の支払いも可能です。
※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。
※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。
※転居された際は新任所をお知らせ下さい。

JHPのホームページから、
クレジットカード(VISA/MASTER)で、
会費・寄付金のお支払いができます！

URLはこちら

<http://www.jhp.or.jp/join/>



◆郵送費削減にご協力頂ける方には、Eメールにて会報を配信いたしますので、下記連絡先までメールアドレスをお知らせください。連絡先: tokyo-office@jhp.or.jp

「JHPニュース Vol.78」(2021年7月号)

発行元: 認定NPO法人 JHP・学校をつくる会
発行人: 小山西美江子
編集人: 眞栄城好香

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2
鈴木ビル2階
TEL: 03-6435-0812

●事務局体制

・東京事務所
伊藤多栄子、岩本宗孝、佐谷隆一、ゾリグト・アズザヤ、
能智和美、野村政道、眞栄城好香、吉岡健治、渡辺悠斗
・ブノベン事務所
高林幸祐、辰川はる奈、矢加部咲、バン・ラス、
メーン・サコーン、ティム・パリー、マオ・カナリン、
ノウ・チャント、スレン・キムヘン、ホン・ソダッ、
ヒム・サヴィー

- ◆東京事務所 綿貫玲子職員が2021年3月31日付で退職。
- ◆東京事務所 渡辺悠斗職員が2021年4月12日付で就任。

●今後のイベント

【8/14(土)】天満敦子チャリティーコンサート

※上記以外のイベントを開催する際は、
ホームページやメルマガでお知らせします。

／ 編集後記

今回のJHPニュースでは、前月号に引き続き、「今だからこそできること」をテーマに、現地事業に携わるスタッフや生徒たちへのインタビュー記事を中心にお届けしました。JHPニュースにおいては、リモートインタビューは、初めての試みでもあり、コロナ禍だからこそその新たな挑戦となりました。
本誌を通じて、活動の背後の現地のスタッフや生徒たち1人1人の想いが皆様に届き、国を越えた“繋がりを”感じていただけたら、嬉しく思います。
(編集事務局)

＊お米一合運動キャンペーン中間報告＊

JHPは、新型コロナウイルス深刻化による収入減で、困窮が深まり、毎日の食事に困っている「ひとり親世帯」を対象に、コロナ禍の食支援として「お米一合運動」*に参加しています。

- ◆キャンペーン期間: 2021年3月1日～9月30日◆
- ＊お米一合運動は、お米一合を無償で提供いただく運動です
皆様からいただいたご支援は、以下の通りです。(6月現在)
◇募金額金額: 310,000円 (お米を購入し、寄付予定)
◇集まったお米: 39.7kg

ご協力いただきました皆様、ありがとうございます。
皆様からご支援いただいたお米は、フードバンクがかわを
通じて、必要とされる方々へお送りいたします。
9月末までご支援の受付をしていますので、引き続き、多くの
皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

JHP・学校をつくる会 東京事務所



*キャンペーンの詳細は当会HPにて掲載しています
<http://www.jhp.or.jp/2021/05/covid19-food-support/>

特集 コロナ禍の現地事業インタビュー

JHPの活動地カンボジア・ネパールでは、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、現地政府の方針によって、学校は暫定的に休校となりました。その影響で、現在は事業活動の中断を余儀なくされており、スタッフや生徒たち皆が、学校再開の心を待ちにしています。

今回のJHPニュースでは、普段現地で事業を進めているスタッフや、生徒たちへのリモートインタビューによる、現地の生の声を中心にお届けします。



認定NPO法人
JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER



4月にフンペン市がロックダウンを開始して以降、CCHでは、約10名の子どもたちが職員とともに生活しています。一時は感染リスクが高いうちに指定されましたが、現在は他の地域と同程度まで落ち着いてきています。ただ、予防の観点から、子どもたちはCCHの中で過ごしていて、学校閉鎖が続く中、プリントや家庭作業を利用して学習を進めています。アートクワアに関しては、このまま市中感染が収まることを祈りつつ、学校再開後に活動を再開できるよう準備を進めています。



今回は、前回に引き続き、アートクワア・ファシリテーターのインタビュ第二弾をお届けします。

3

今まで取り組んできたことで一番嬉しかったこと、最も大変だったこと、最もやりがいを感じたことは？

『私にとって一番嬉しかったことは、CAPの活動中に子どもたちがお気に入りのスペースや活動の過程を楽しんでくれたことです。課題は常にありますが、解決策はありますし、困難なことがいくつあっても、私たちはそれらに対応できるので、子どもたちにとっても良い結果となっています。これが私のやりがいです。子どもたちは、とても物知りで、学ぶための明確な目標を持っていますし、クワアでの成長を守っているのです。私はとても幸せです。』

2

どんな怒りを持って、活動を企画していますか？

『みなさんこんにちは、CCH職員のスレイナです。私は、CCHアートプロジェクト(CAP)が開始された当初からCAPの活動に関わっています。CAPではファシリテーターとして、子どもたちと活動したり、これまで自分がアートクワで得てきたものを、子どもたちに共有したりしています。』

1

自己紹介をお願いします。具体的にどんな仕事を担当していますか？

5

日本の支援者の方へ一言メッセージ

4

CAPを担当する中で、印象に残っている思い出やエピソードは何かありますか？

『カンボジアの子どもたちを元気づけていただき心から感謝致します。子どもたちは、皆さまの寛大なご支援のおかげでもっとも幸せであり、CAPの活動にもっと成長し、笑顔で過ごしています。皆さまが未永く健康に過ごされることを心より願っております。』



子ども達にレクチャーをするスレイナ職員

Interview Case1



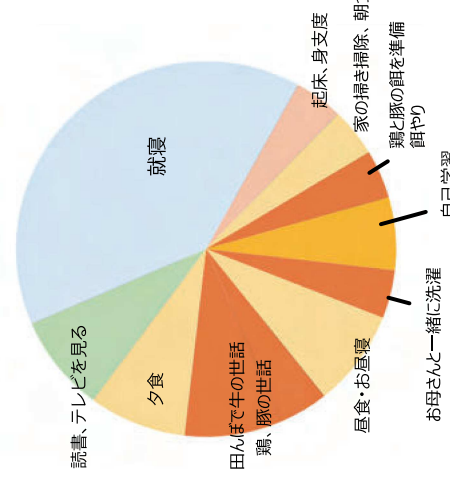
学校建設



■名前：コーン・ラクサ (13歳)
■学年：小学5年生
■バッタンバン州在住

『学校が閉鎖されてからオンラインで勉強していますが、インターネットが使えるところを探すのに苦労しています。分からなことがあっても先生に聞くことができないので、勉強のモチベーションを保つことが難しいです。学校が閉鎖されてから、母の仕事をよく手伝うようになり、勉強する時間が減って、日に日に不安になります。一日も早く学校が再開して、友達と一緒に勉強できる日が来たらいいと思います。』

時間	コーン・ラクサさんの1日のスケジュール
5:30	起床、身支度
6:30	家の掃き掃除、朝食
7:30	鶏と豚の餌を準備、餌やり
8:30	自己学習 (宿題、読書、オンラインにて学習等)
10:00	お母さんと一緒に洗濯
11:00	昼食、お昼寝
13:00	鶏、豚の世話
14:00	田んぼで牛の世話
16:00	夕食
18:00	読書、テレビを見る
20:00	就寝



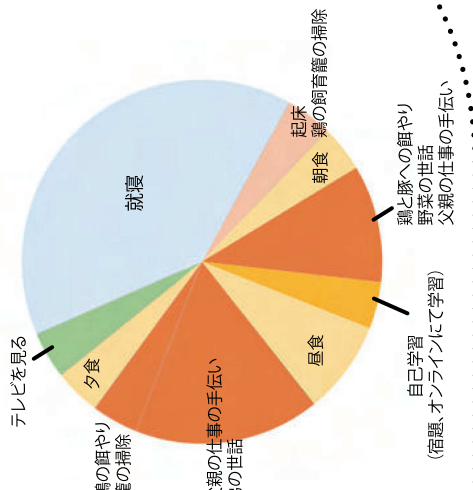
家事の手伝い(濃いオレンジ色)の割合時間が、学習時間(オレンジ色)よりも多い傾向にあります。

Interview Case2



■名前：パス・ヤー (14歳)
■学年：小学5年生
■プルサット州在住

『新校舎が昨年建設されて、安全な校舎で勉強ができると喜んでいたのですが、自宅学習に変わってしまい残念です。早く前のような日常に戻って欲しいと思います。』



時間	パス・ヤーさんの1日のスケジュール
5:30	起床、鶏を飼育している籠の掃除
6:30	朝食
7:30	鶏と豚への餌やり、野菜の世話、父親の仕事の手伝い
10:00	自己学習 (宿題、オンラインにて学習)
11:00	昼食
13:00	父親の仕事の手伝い、弟の世話
17:00	鶏の餌やり、籠の掃除
18:00	夕食
19:00	テレビを見る
20:00	就寝

識字教育

成人のための識字教育

カンボジア国内の全教育機関は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、政府の通達を受け、2021年3月20日より一時的に閉鎖しています。2月15日に開講した第3期識字クラスも感染拡大を防ぐため、一時閉講しています。



第3期識字クラス開講式の様子

受講生 interview



■ 名前：ローン・ピック(17歳)
■ コンボンチャム州 バンタイ郡
トロッア・コミュニケーション・ボルサヤ村在住

受講生の実際の今の生活を
リポートでインタビューしました。

Q1

識字クラスを受講し
もつと思つたきっかけ
を教えてください。

『私は7人兄弟の9人家族で、幼い頃から貧しい家庭に育ちました。小学3年生の頃、父親が重い病気にかかり働けなくなりました。父親の治療費と家族の食費を稼ぐために学校を退学し、父親の稲作の仕事を引き継いだため、クメール語の読み、書きの能力が十分ではありません。本やインターネットから必要な情報をもつてたじろと思ひ、受講を決めました。』

Q2

最近はこのように
過ごしていますか？

『毎朝6時頃に起きて鶏に餌を与え、牛の世話をしています。ご飯の準備をしてから田んぼに行き、夕方頃まで稲作をします。その後、家畜に餌を与えてから、以前は識字クラスに参加していましたが、今はクラスが閉講しているため、家で自習をしています。分からないことがあれば、近くに住んでいる識字クラスの先生に聞きに行きます。』

コロナウイルス感染防止のため、お米を卸していた市場が封鎖され、収入は減りました。苦しい時を過ごしていますが、自分だけではなく、田舎に住むほとんどの人々がコロナの原因で収入が減り、苦しい時期を過ごしています。』



ローン・ピックさん 稲作の様子

Q3

識字クラス修了後の
目標はありますか？

『修了後は、本やインターネットから稲作に関する知識を蓄え、生産性を上げて、質のいいお米を作つて収入を増やしたいです。一日も早く、コロナウイルスの感染が終息することを望んでいます。』

2月に開講した後、すぐに市中感染が起こり閉校したため、とても残念だという言葉を受講生から聞きます。4月中旬のロックダウン時と比べ、5月中旬現在、陽性者の数は減少傾向にありますが、ローカル市場は閉鎖されており、予断を許さないう状況が続いています。



2月の識字クラスの様子

JICA草の根技術協力事業

カンボジアの子供たちに音楽と美術の楽しさを

初等科芸術教育支援事業

前回のJHP ニュースでは、2020年4月から10月までの活動をお伝えしました。コロナによる影響は11月以降も続き、国内の感染拡大状況の変化に伴い、学校の再開や自粛の要請などの措置が繰り返されました。

事業の活動は、国内の状況に合わせる形で、規制下では教育者ワーキンググループのメンバーとともに小学校の芸術教科の生徒用教科書(以降、教科書)と教員用指導書(以降、指導書)の作成を中心に、1月から新学期で学校が再開されてからは、学校での授業実践やパイロット事業に関わる活動を進めました。2020年3月に中断を余儀なくされたナショナルトレーナー候補による教員研修とトニヤール事業は、学校が再開されていた、1〜2月の間に着手することができましたが、その後、国内で大規模な市中感染が起こつたことにより、2月末より再度、学校が閉鎖されました。

事業活動2019年11月から2020年4月までに行われた主な活動内容は次の通りです。

1. 授業実践・作成作業の実施



日本、カンボジアの両国において、オンライン等でのやりとりを中心としながら、各科目の教科書、指導書を作成するための会議や授業実践、作業を行いました。1〜3学年の教科書・指導書は、美術科目、音楽科目ともに印刷会社によるレイアウトやワーキンググループとの校正作業が進み、完成形が見えてきました。

- ・美術科目：作成・修正会議、作業、授業実践、デザイン会社によるレイアウト作業(随時/継続)
- ・音楽科目：作成・修正会議、作業、デザイン会社によるレイアウト作業(随時/継続)

2. パイロット事業の開始

① ナショナルトレーナー候補によるタケオ州での教員研修

2020年3月のタケオ州での教員研修(美術)は、コロナの影響を受け中断・延期されていましたが、学校が再開した2月に再実施することができました。



研修前の感染予防対策の実施

- ◆ 実施日(美術科目1〜3年)：2021年2月1〜4日
- ◆ 講師：ナショナルトレーナー候補(ブノベン教員養成大学の美術科教師5名)
- ◆ 対象者：タケオ州2郡の小学校4校の1年生から3年生までの担任教員1名ずつ、各校の学校長、対象部教育局職員2名、州教育局職員1名、計19名



「仮面劇」の鑑賞の授業体験



石を使った造形あそびの授業体験

② 対象校でのトニヤール授業の実施



トニヤール授業で友だちの作品を鑑賞する生徒



トニヤール授業用の材料用箱の準備

研修を受けた12名の先生方は自分の学校へ戻り、寄贈された材料・用具、衛生資材、新しい1〜3年生の教科書・指導書を用いて自分のクラスの生徒への美術のトニヤール授業を開始しました。

その後、すべてのトニヤール授業が終了する前に学校が再度閉鎖となつてしまつたため、残りの活動は学校の再開後へと延期されました。このトニヤール授業から得られるフィードバックは、教科書・指導書の改訂に使用されます。



教科書を使用したトニヤール授業

ネパール学校建設

最近のインドのコロナ蔓延の影響を受け、ネパールでも、一度収まったコロナ感染拡大が再発し、5月中旬では、ネパール全土で一日の感染者数が8千人を超え、累計の感染者数450千人、死者5千人弱に達しました。

カトマンズでは、不要不急の外出禁止令が出されていますが、活動地区のジャバでも、5月後半に入って外出禁止令が出ました。この結果、A様寄贈のバルサボニー2学校2階建て4教室の工事は、ほとんど完成しましたが(写真1)、工事中断のやむなきに至っています。外出禁止令が解除され次第、内装工事を進めて、10月には完成の予定です。

もう1校のG様寄贈のアルマイト学校は、建設予定地の整備が終わり、雨期までに基礎工事を終え、今年11月の完成予定でしたが、工事を始めたところで中断しています。

他方、昨年完成したサカルマータ学校とツクスミナラヤン学校は、贈呈式は開催できなりましたが、年初より、学校が隔日登校や短縮授業を開始したことにより、両校とも1校同意のもと、教室が使われ始めました(写真2)。残念ながら、現在、学校は再び休校となりました。



写真1：バルサボニー2学校の背面図
モルタル塗り作業はほぼ完了



写真2：新しい教室で講義を受ける生徒たち

カンボジアの子どもたちに音楽と美術の楽しさを

初等科芸術教育支援事業



☆☆カンボジア教育省・職員インタビュー

第2弾をお届けします☆☆

01 JHPの芸術教育事業にどのように携わってきましたか？

『芸術教科の教科書・指導書作成のため、自身の知識や経験を共有しながら、物心両面で事業に携わっています。』

02 今まで取り組んできたことで、一番嬉しかったこと・最も大変だったこと・最もやりがいを感じたことを、それぞれ教えてください。

◇一番嬉しかったこと：『日本での研修や、カンボジアの地方にある対象校への訪問、日本人専門家を招いてのワークショップで、良い経験を得ることができたことです。』

◇最も大変だったこと：『スケジュールが重複したり、祝日に活動が重なったりして、十分に時間が取れない時などが大変です。』

◇最もやりがいを感じたこと：『日本人専門家から良い知識を学び、授業の指導案を準備する経験、教科書・指導書のデザインをしていることなどです。』

03 この事業で一番重要なことは何だと思いますか？

『この事業で重要なことは、教科書や指導書・指導計画の作成をすること、そして、小学校の教員へ普及するためのトレーニングです。』

04 この事業を通じて、子ども達は何を得ることができると思えますか？

『芸術教科を学ぶことで、子どもたちは想像したことを形にしたり、創り出す力を身につけることができると思います。また、学習に励むためのステップになつたり、自分が何をしたいのかをイメージする習慣を得ることができるようになるでしょう。』

05 読者へ一言メッセージ

『芸術教科によって養われる子どもたちの考える力やクリエイティブな力は、他のすべての教科の学習において大切な力となります。そのためにも、子どもたちは一年生から芸術教科を学び始めるべきだと考えています。』



子ども達に熱心に指導するリム・セイン職員



「在日外国人児童が描く私の好きな日本」展に、CCHの子ども達が描いた絵50点が展示されました



頂いたクレヨンと一緒に記念撮影

アジア地域の国々と日本の子どもたちの美術をかけ橋とした活動の一環として「在日外国人児童が描く私の好きな日本」の展示会が、2月15日〜22日の期間にかけて、四谷のCCAアートナラザで開催されました。

JHPでは、CCHの子ども達が描いた絵50点余りを展示させていただきました。ご来場くださった皆さま、ありがとうございました。

参加したカンボジアの子ども達には、協賛のペンてる様より



賞状と展示会パンフレットと一緒に



1つのエリアに50点の絵が展示されました

四季随想 渡子

今回は、ご子息より届いた代表 小山内の現在の近況をお伝えします。

当会代表 小山内は、今年の1月に91歳の誕生日を迎えました。

現在は、横浜市内の施設にて療養中ですが、6月中旬には、2度目の新型コロナウイルスのワクチン接種も完了し、正気に過しています。



91回目の誕生日を迎えました

出かけることもできないため、変わらない日常を過ごしていますが、「早くどこかに行きたいわ。どこに行こうか」とコロナが収まった後のことを楽しみにしています。コロナが収まり、自由に集まり交流できる日まで、どうぞ皆様もご自愛ください。



ご子息とともに近くの桜の花見に出かけた際の一枚

JHP・学校をつくる会 チャリティーイベント 2021 「天満敦子チャリティーコンサートVol.16」

天満敦子チャリティーコンサートは、天満敦子さんの「ヴァイオリンでカンボジアの子どもたちのお役に立ちたい」という想いからスタートし、今年で16回目を迎えます。コンサートの収益金や寄付金は、当会が実施している「JHPドレミとアート基金」の一部として、カンボジアの芸術教育支援活動に広く活用されています。新型コロナウイルスによる昨年の開催見送りから1年、今年は待望の開催です。是非、ご家族ご友人お誘いあわせの上、ご参加ください。

日 時：2021年8月14日(土) 13:30開演(13:00開場)
出 演：天満 敦子 (Violin)
会 場：浜離宮朝日ホール 音楽ホール
参加費：4,000円(全席指定)
詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.jhp.or.jp/2021/05/temma2021/>



上記のQRコードからご覧になれます

